

PRIMERGY

**PRIMERGY H200 ラックマウント変換機構
(PG-R1CK3)**

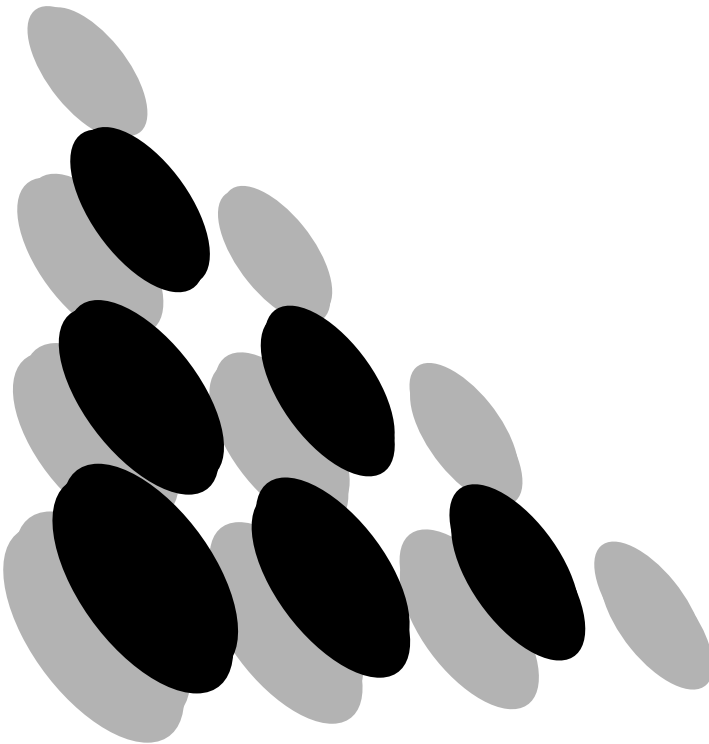
取扱説明書

J

**PRIMERGY H200 Rack Conversion Kit
(PG-R1CK3)**

USER GUIDE

E



はじめに



■ ごあいさつ

この度は、PRIMERGY H200 ラックマウント変換機構（PG-R1CK3）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ラックマウント変換機構は、デスクサイドタイプのサーバをラックに搭載するために、ラックマウントタイプに変換するためのキットです。

本書はラックマウント変換機構の取り扱いの基本的なことからについて説明しています。

本書をご覧になり、ラックマウント変換機構を正しくお使いいただきますよう、お願い致します。

J

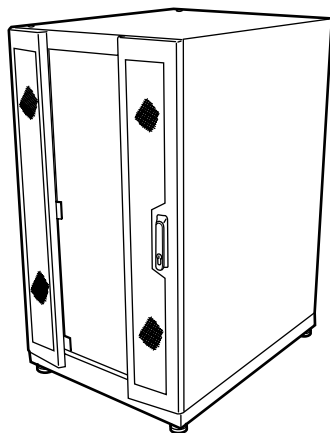
2002 年 3 月

■ ラックについて

サーバを搭載できるラックには、次の 2 つのタイプがあります。

- － スタンダードラック（PG-R3RC1、PG-R3RC2、PG-R4RC1、PG-R4RC2）
- － スリムラック（GP5-R1RC6、GP5-R1RC7、GP5-R2RC3、GP5-R2RC4）

[スタンダードラック]



[スリムラック]



会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2002

安全上のご注意



本装置およびそのオプション装置を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。



△ で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。



⊘ で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が示されています。



● で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が示されています。

■ 取り扱い上のご注意



禁止



- サーバ本体を湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないでください。故障・火災・感電の原因となります。

感電



- サーバ本体をラックマウントタイプに変換するときは、システムを終了し、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。感電したり機器が故障するおそれがあります。



指示



- サーバ本体をラックマウントタイプに変換するときは、必ず担当営業員または担当保守員に連絡してください。

禁止



- サーバ本体を直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所には設置しないでください。また、10℃未満の低温になる場所には、設置しないでください。故障の原因となります。
- サーバ本体を塩害地域では使用しないでください。故障の原因となります。
- ラックの開口部（通風孔など）をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
- 電源ケーブルおよび各種ケーブル類に足がひっかかる場所には設置しないでください。故障の原因となります。
- サーバ本体をテレビやスピーカの近くなど、強い磁界が発生する場所には設置しないでください。故障の原因となります。



- 空気の吸排気口である装置前面部および背面部をふさがないでください。
これらをふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
- サーバ本体を移動する場合は、必ず電源を切断し、ケーブル類／マウス／キーボード／AC ケーブルを外してください。オプションの搭載によって、最大 60Kg 以上の重量となりますので十分注意してください。

本書の表記について



■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：[Ctrl] キー、[Enter] キー、[→] キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：[Ctrl] + [F3] キー、[Shift] + [↑] キーなど

■ コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
      ↑ ↑
```

↑の箇所のように文字間隔をあけて表記している部分は、[Space] キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

■ 本文中の表記

本文中では、以下の表記・記号を使用しています。

ラックマウント変換機構または本製品

PRIMERGY H200 ラックマウント変換機構のことです。

サーバ本体または本サーバ

PRIMERGY H200 のことです。

本書では、本サーバの形態を区別して、以下の名称を用いて説明しています。

- ・ デスクサイドタイプ
- ・ ラックマウントタイプ

また、ラックの形態を区別して、以下の名称を用いて説明しています。

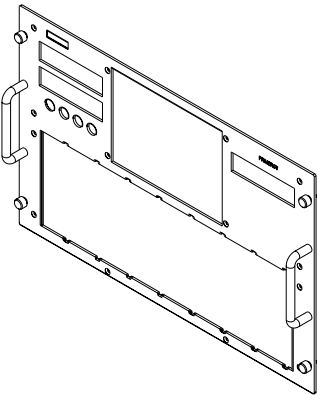
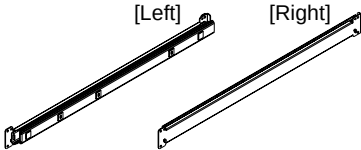
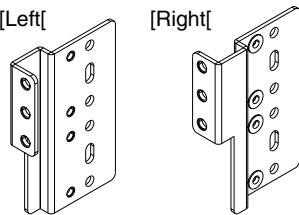
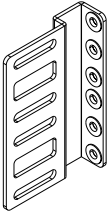
- ・ スタンダードラック
- ・ スリムラック

目 次

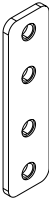
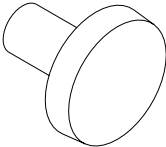
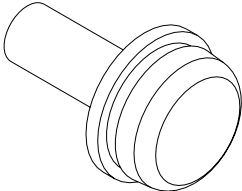
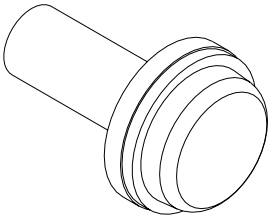
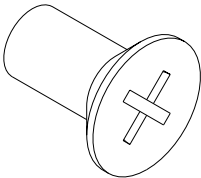
本製品の梱包物	1
操作方法	5
1 変換作業前の準備	7
2 フロントドアの取り外し	7
3 内蔵ハードディスクの取り外し	9
4 トップカバーの取り外し	10
5 サイドカバーの取り外し	11
6 内部サイドカバーの取り外し	12
7 CPU の取り外し	13
8 フロントカバーの取り外し	14
9 各ドライブキャリアの入れ替え	15
10 CPU の取り付け	25
11 内部サイドカバーの取り付け	26
12 ラックフロントカバーの取り付け	26
13 サーバ本体のラックへの搭載	27
14 内蔵ハードディスクの取り付け	33
15 電源を入れる前の確認事項	34
16 Chassis ID の更新	35
付録	37
使用環境シート	37

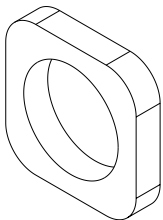
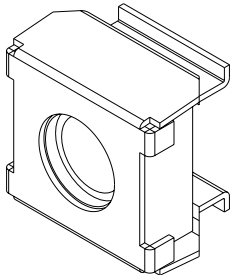
本製品の梱包物

ここでは、本製品に同梱されている部品を示します。
作業を行う前に、以下のリストに従って部品がすべて揃っているかどうかを確認し、万一足りない部品があった場合は担当営業員に連絡してください。

部品	名称	数量	確認
	ラックフロントカバー	1	☐
	スライドレール	左右 各 1	☐
	ブラケット (A)	左右 各 1	☐
	ブラケット (B)	2	☐

J

部品	名称	数量	確認
	ブラケット (C)	2	☐
	M4 バインドネジ	6	☐
	M5 ネジ	8	☐
	M6 ネジ	4	☐
	M6 サラネジ	4	☐

部品	名称	数量	確認
	スクリューホルダー	4	☐
	ラックナット	4	☐



ポイント

*** ネジの取り外し／取り付けには、トルクスドライバーが必要です。
トルクスドライバーを用意してください。

操作方法

本章では、サーバをデスクサイドタイプからラックマウントタイプに変換する手順について説明します。

⚠ 警告

感 電



- ラックマウントタイプへの変換作業を行う前に、必ずシステムを終了させ、サーバ本体および接続している周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。

禁 止



- 内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。故障・火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

指 示



- サーバをラックマウントタイプに変換するときには、担当営業員または担当保守員に連絡し、変換作業は必ず担当保守員に行わせてください。
- サーバのラックマウントタイプへの変換作業は、安定した場所で行ってください。オプションの搭載によって、最大 60kg 以上の重量となりますので十分注意してください。
- サーバのラックマウントタイプへの変換作業は、サーバ本体を横にして作業をするのに十分な広さの場所で行ってください。
- サーバをラックマウントタイプに変換する前に必ずシステムを起動し、システムの動作状況を確認してください。
- 電源を切った直後は、サーバの内部の装置が熱くなっています。内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと 10 分ほど待ってから、作業を始めてください。
- 内蔵オプションは、基板や半田付けした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、添付のリストストラップを必ず着用してから作業を行ってください。
- 基板表面や半田付けの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。

■ 操作全体の流れ

- 1 変換作業前の準備を行います。
- 2 フロントドアを取り外します。
- 3 内蔵ハードディスクを取り外します。



必ず内蔵ハードディスクを取り外してください。作業中に内蔵ハードディスクに衝撃が加わると、保存されているデータが損傷することがあります。

- 4 トップカバーを取り外します。
- 5 サイドカバーを取り外します。
- 6 内部サイドカバーを取り外します。
- 7 CPU を取り外します。
- 8 フロントカバーを取り外します。
- 9 各ドライブキャリアを入れ替えます。
- 10 CPU を取り付けます。
- 11 内部サイドカバーを取り付けます。
- 12 ラックフロントカバーを取り付けます。
- 13 ラックマウント変換機構をサーバ本体に取り付け、ラックに搭載します。
- 14 手順 3 で取り外した内蔵ハードディスクを再び取り付けます。
- 15 電源を入れる前の確認を行います。
- 16 ServerView の画面表示をラックマウントタイプの表示に変更するために、Chassis ID を変更します。

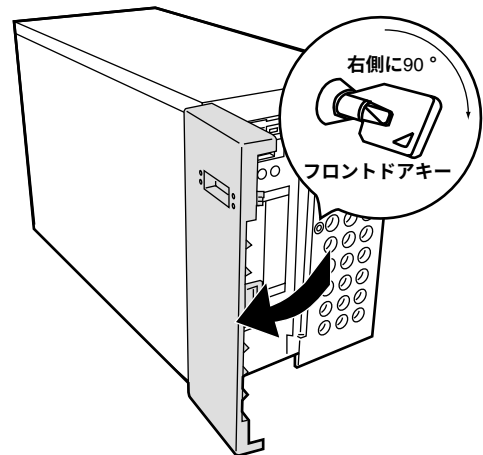
1 変換作業前の準備

- 1 付録「1 使用環境シート」(→ 29 ページ) に、必要事項を記入します。
- 2 サーバのシステムが動作している場合は、システムを終了させます。
- 3 サーバ本体の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外します。
- 4 周辺機器が接続されている場合は、周辺機器の電源を切り、サーバ本体から取り外します。

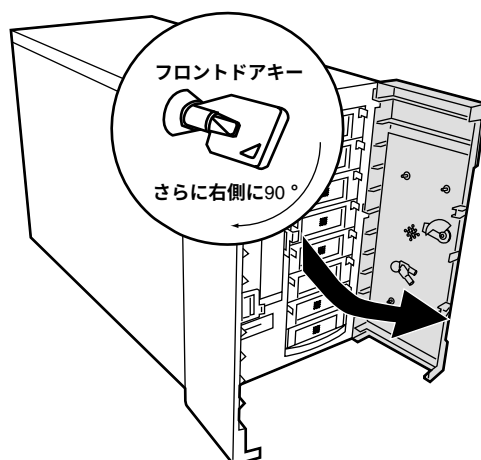
2 フロントドアの取り外し

J

- 1 サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外します。
- 2 フロントドアキーを右側に 90 度回し、フロントドアの左側を開けます。



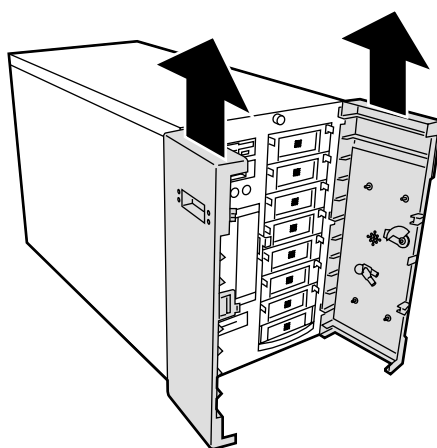
- 3 フロントドアキーをさらに右側に 90 度回し、フロントドアの右側を開けます。



注意

フロントドアキーは装置ごとに異なります。紛失しないように注意してください。
紛失した場合はフロントカバーの購入／交換が必要となります。

- 4 フロントドアを持ち上げて、手前に取り外します。



3 内蔵ハードディスクの取り外し

サーバ本体の向きを変えるときは、内蔵ハードディスクを一度取り外してから作業を行います。取り外した内蔵ハードディスクは、サーバ本体をラックに搭載したあとに、再度取り付けます。

ここでは、内蔵ハードディスクの取り外しの手順について説明します。



指示



サーバ本体を移動する前に、必ず内蔵ハードディスクを取り外してください。内蔵ハードディスクに衝撃が加わると、保存されているデータが損傷することがあります。

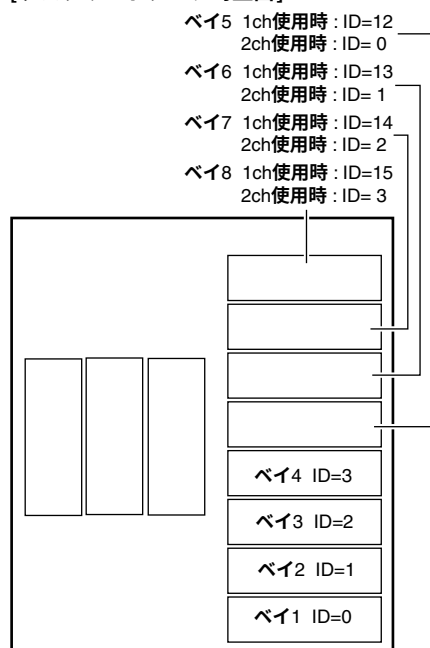
J

■ 内蔵ハードディスクの搭載位置についての注意

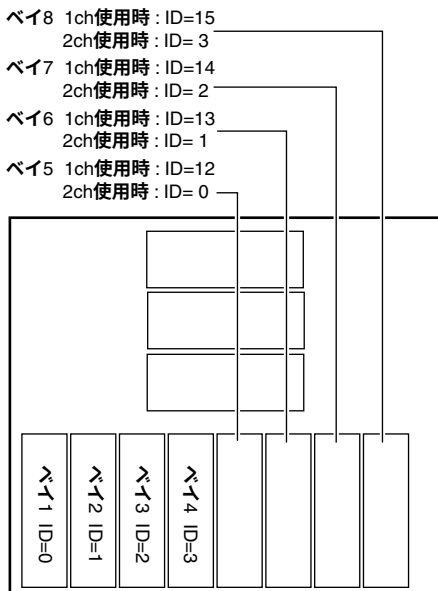
サーバをデスクサイドタイプからラックマウントタイプに変換すると、ベイの向きが変わります。

内蔵ハードディスクは、取り外す前にデスクタイプ時のベイ番号と SCSI-ID を記録しておき、ラックマウントタイプに変換後は必ず取り外し前と同じ位置に搭載してください。

[デスクサイドタイプ時正面]

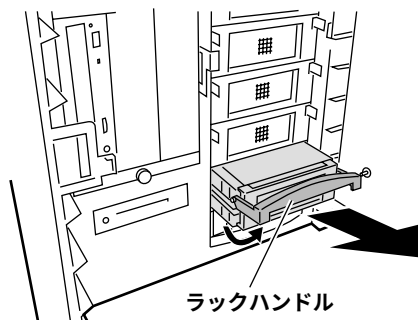


[ラックマウントタイプ時正面]



■ 取り外し手順

- 1 サーバ本体および周辺装置の電源を切断し、電源ケーブルをサーバ本体から取り外します。
- 2 内蔵ハードディスクを取り外します。
内蔵ハードディスクのハンドルを上げて、手前に引き出します。



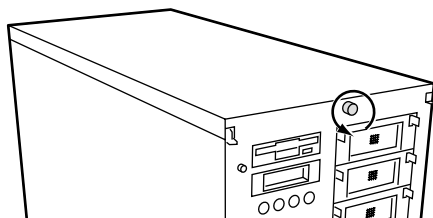
4 トップカバーの取り外し



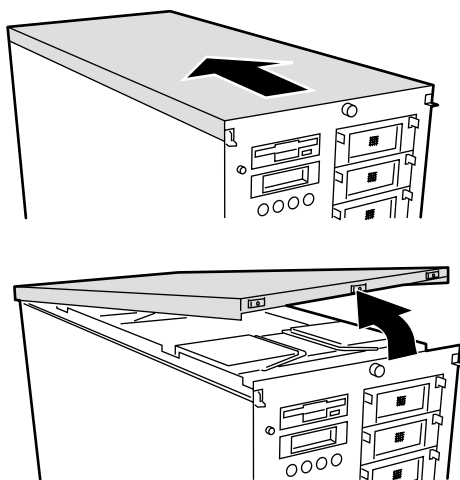
注意

各カバーの取り外し／取り付けを行うときは、必ず添付のリストストラップを着用してください。
リストストラップは、作業が終了するまで外さないでください。

- 1 サーバ本体前面の1箇所をつまみネジ（★要確認）をゆるめます。



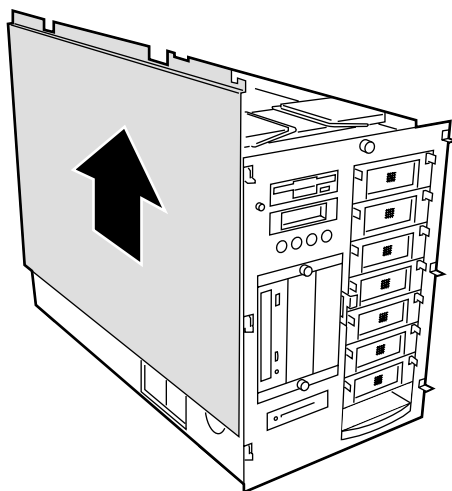
- 2 トップカバーを後方にスライドさせ、上方に持ち上げて取り外します。



J

5 サイドカバーの取り外し

- 1 左側のサイドカバーを上方に持ち上げて、取り外します。

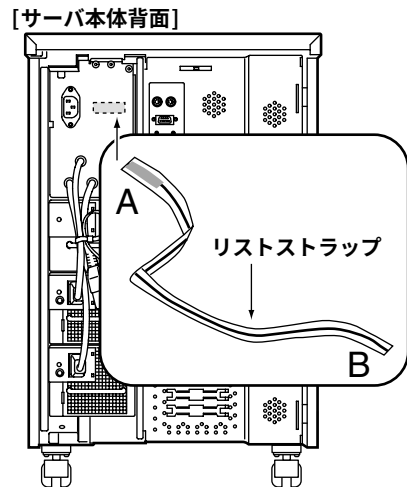


- 2 右側のサイドカバーを、手順 1 と同様に上方に持ち上げて、取り外します。

3 リストストラップを着用します。

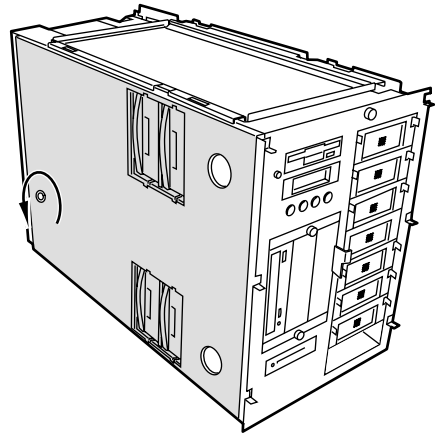
リストストラップは、本サーバに添付されています。リストストラップは、サーバ本体に接着する面（図中 A）と、手首に巻き付ける面（図中 B）があります。

A 側のシールをはがして、図に示すようにサーバ本体背面に接着します。B 側は手首に巻き付けてください。

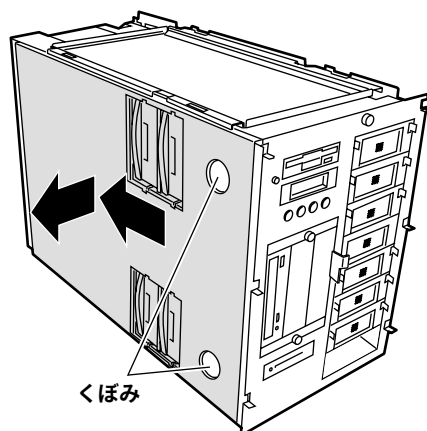


6 内部サイドカバーの取り外し

1 内部サイドカバーを固定しているネジ（1箇所）を外します。



- 2 内部サイドカバーのくぼみに手を添えてサーバ後方にスライドさせ、内部サイドカバーを持ち上げて取り外します。

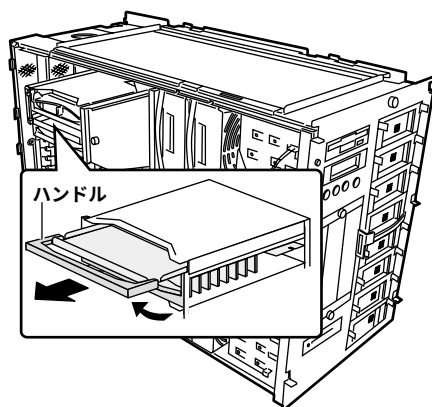


J

7 CPU の取り外し

ドライブキャリアの入れ替え（「9 各ドライブキャリアの入れ替え」(→ 15 ページ)）を行うためには、いったん CPU および CPU ターミネータカードを取り外す必要があります。取り外した CPU および CPU ターミネータカードは、ドライブキャリアを入れ替えたあとに、再度取り付けます。
ここでは、CPU の取り外し手順について説明します。

- 1 すべての CPU および CPU ターミネータカードのハンドルを引き上げ、手前に引き出します。



8 フロントカバーの取り外し

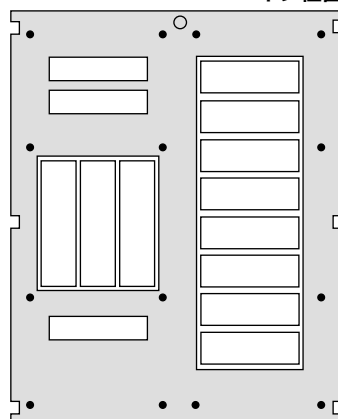
デスクサイドタイプ時のフロントカバーは、ラックマウント時には取り外し、代わりにラックフロントカバーを取り付けます。ここでは、フロントカバーの取り外し手順について説明します。

ラックフロントカバーの取り付けは、「12 ラックフロントカバーの取り付け」(→ 26 ページ)で行います。

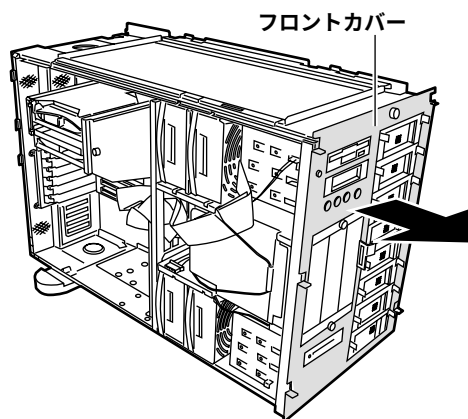
- 1 トルクスドライバーを使用して、フロントカバーを固定している 14 本の *** ネジ (★要確認) を取り外します。

[フロントカバー]

● = ネジ位置



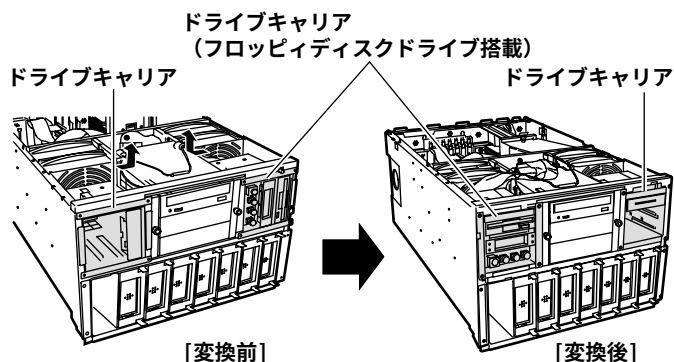
- 2 フロントカバーを前方に引いて取り外します。



取り外したネジは、ラックフロントカバーの取り付け時に使用しますので、なくさないように注意してください。

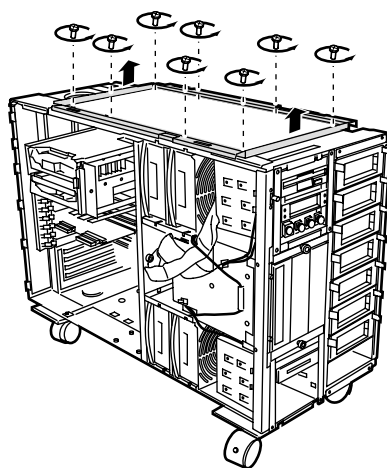
9 各ドライブキャリアの入れ替え

ラックマウントタイプに変換するときは、各ドライブキャリアに搭載されているユニットを、ドライブキャリアごと向きを変えて入れ替えます。

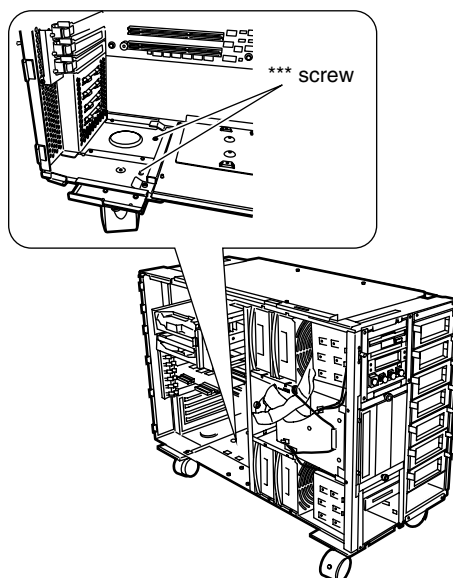


■ ドライブキャリアの入れ替え前の準備

- 1 サーバ本体上部のフレームの 8 本の *** ネジ (★要確認) を外し、フレームを取り外します。



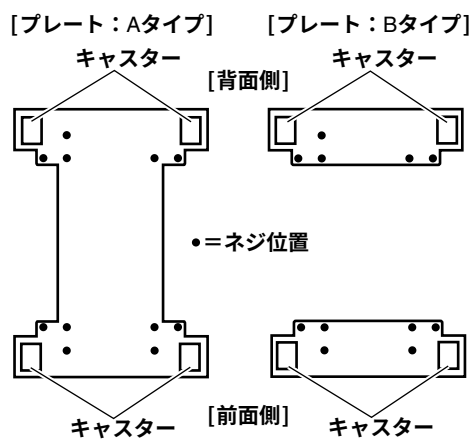
- 2 サーバ本体内部の底面にある *** ネジ (★要確認) を 2 本外します。



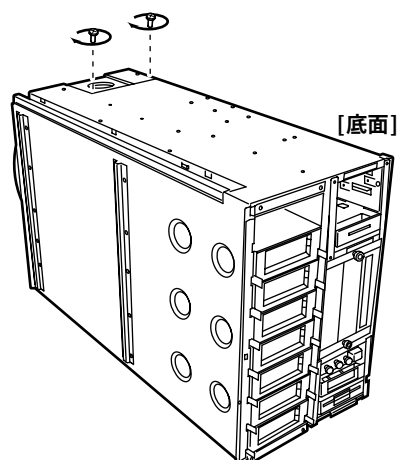
- 3 サーバ本体を、底面を上に向けて置きます。

- 4 サーバ本体底面のキャスターを取り外します。

キャスターのプレートには 2 つのタイプ (A、B) があります。
下の図を参照してネジを外し、
キャスターをプレートごと取り外してください。

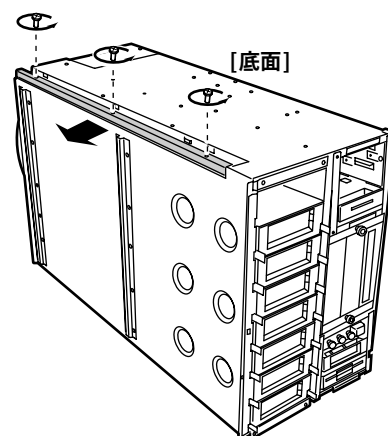


- 5 手順4で取り外した *** ネジ (★要確認) のうち 2 本を、サーバ本体底面の背面側に取り付けてしめます。

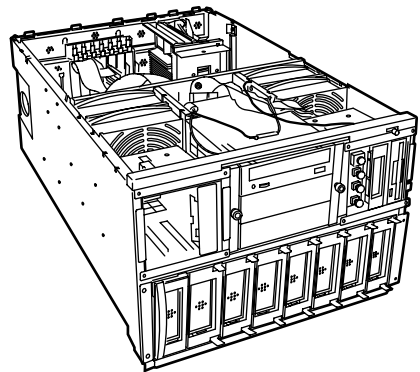


J

- 6 サーバ本体底面に取り付けられているバーを取り外します。
3 本の *** ネジ (★要確認) を外し、サーバ本体から取り外します。

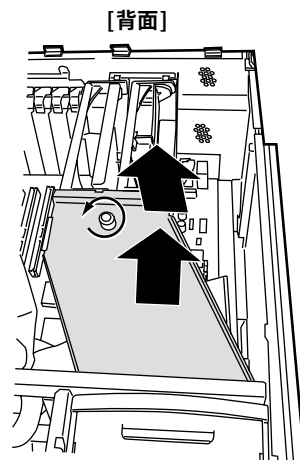


- 7 サーバ本体を図のように横にして置きます。



- 8 送風ダクトを取り外します。

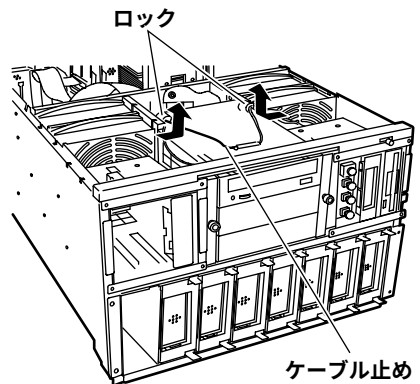
送風ダクトを固定している1箇所のみネジ(★要確認)をゆるめて、ダクトを後方にスライドさせ、上に引き出します。



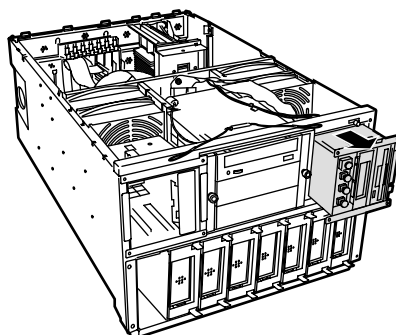
■ ドライブキャリアの入れ替え手順

- 1 ドライブキャリアに取り付けられているケーブル止めを解放します。

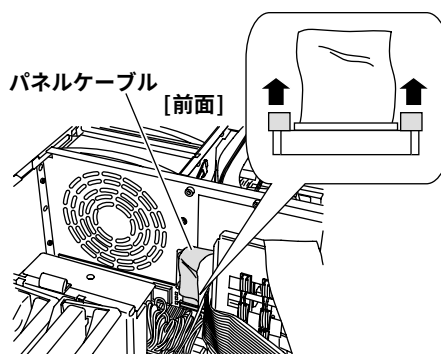
ケーブル止めの両側を押しながらロックを外し、ケーブル止めを解放します。



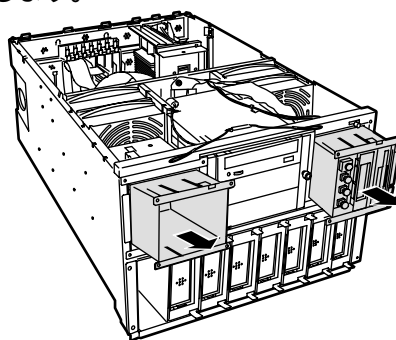
- 2 フロッピーディスクドライブケースを前方に少しずらします。



- 3 フロッピーディスクドライブに接続されている電源ケーブルと信号ケーブルを取り外します。
- 4 LCD パネルの電源バックパネル上のパネルケーブルを取り外します。
パネルケーブルコネクタは、サーバ本体内部のドライブキャリアの裏側にあります。
左右のラッチを上方に押し上げてから、パネルケーブルを引いて取り外します。

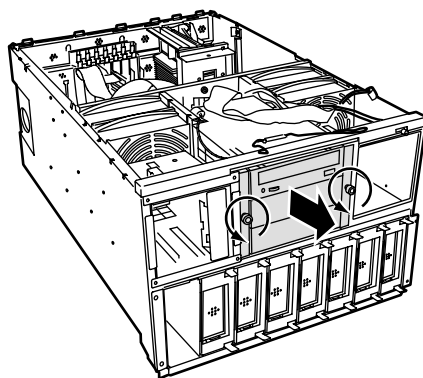


- 5 左右のケースを前方に引いて取り外します。

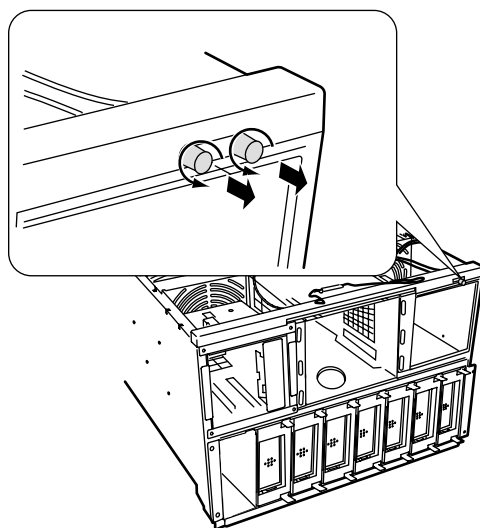


6 ドライブキャリアを取り外します。

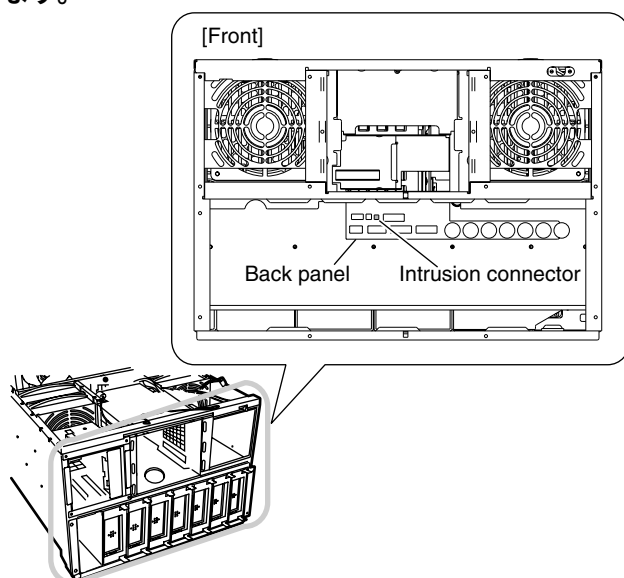
ドライブキャリアを固定している 2 箇所のネジをゆるめて、ドライブキャリアを手前に引き出します。



7 サーバ本体前面の 2 本のイントリュージョンスイッチを取り外します。

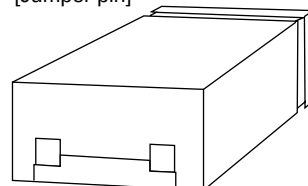


- 8 電源バックパネル上のイントリュージョンケーブルをコネクタから取り外します。



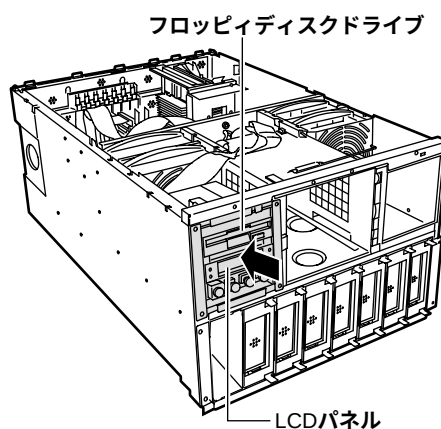
- 9 本製品に添付（★要確認）のジャンパピンを、手順8でイントリュージョンケーブルを外したコネクタに取り付けます。

[Jumper pin]



- 10 左側にフロッピーディスクドライブが搭載されたケー지를取り付けます。

ケー지를回転させ、上から順にフロッピーディスクドライブとLCDパネルが並ぶ向きにしてから取り付けます。



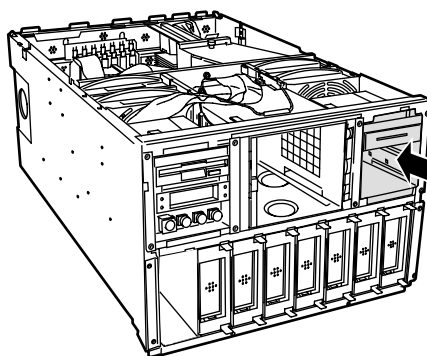
- 11 フロッピーディスクドライブに、電源ケーブルと信号ケーブルを取り付けます。



ケーブル類がねじれている場合は、ねじれを直してからフロッピーディスクドライブに接続してください。

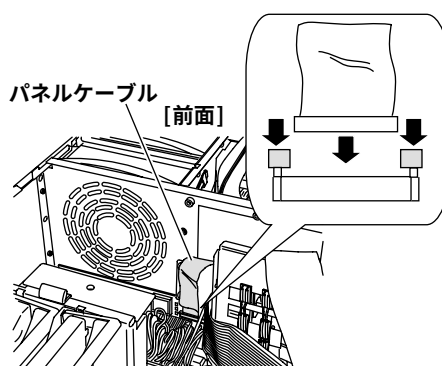
- 12 右側にもうひとつのケージを取り付けます。

ケージを回転させ、フロッピーディスクドライブ搭載のケージと同じ向きにしてから取り付けます。



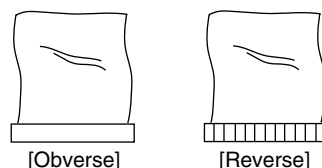
13 オペレータパネルの電源バックパネルに、手順 4 で取り外したパネルケーブルを取り付けます。

パネルケーブルをコネクタに差し込み、左右のラッチを下方に押し下げます。

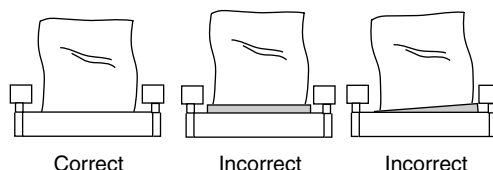


⚠ 注意

- パネルケーブルの表裏を間違えないようにして、取り付けてください。

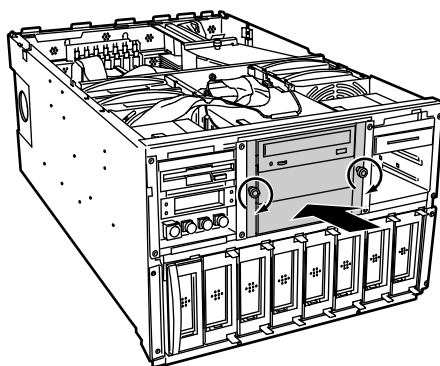


- パネルケーブルは図を参照して正しく差し込んでください。

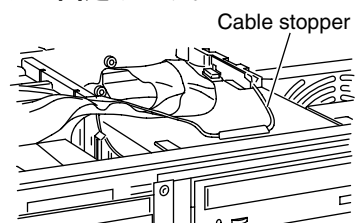


14 ドライブキャリアを取り付けます。

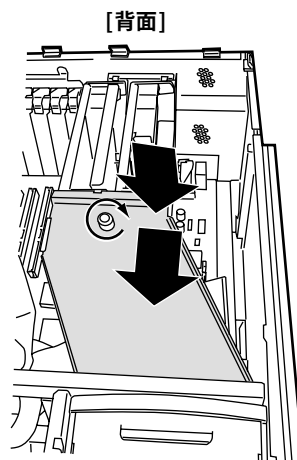
ドライブキャリアをサーバ本体に戻し、2箇所をつまみネジ（★要確認）をしめて固定します。



- 15 フロッピーディスクのすべてのケーブルを、ドライブキャリアのケーブル止め挟み込みケーブル止めに、ロックに固定します。

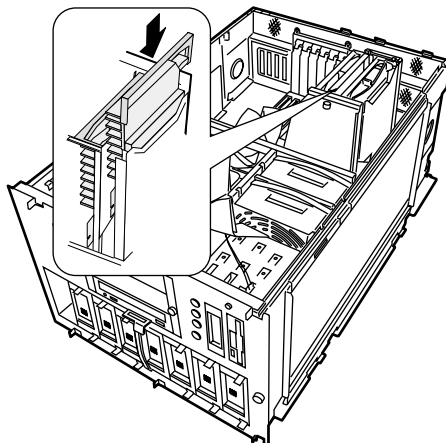


- 16 送風ダクトを取り付け、つまみネジ（★要確認）をしめて固定します。

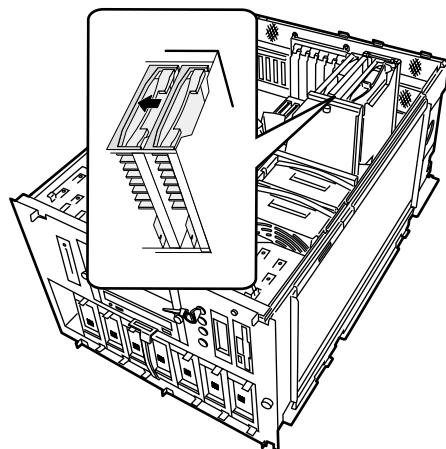


10 CPU の取り付け

- 1 CPU および CPU ターミネータカードのハンドルを上げた状態で、CPU スロットにゆっくりと差し込みます。



- 2 ハンドルを下げて、確実に CPU および CPU ターミネータカードを差し込みます。



ポイント

CPU を取り付ける際は、CPU が CPU スロットに完全に差し込まれていることを確認してください。完全に差し込まれていない場合、CPU は正しく認識されません。

J

11 内部サイドカバーの取り付け

内部サイドカバーは、「6 内部サイドカバーの取り外し」(→ 12 ページ) と逆の手順で取り付けてください。

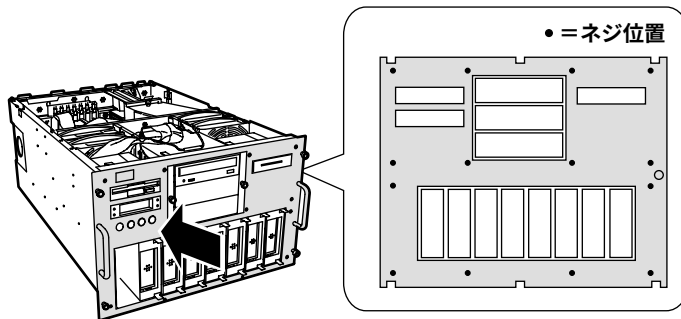
⚠ 注意

- 内部サイドカバーを取り付けるまで、リストストラップは外さないでください。
- 内部サイドカバーを取り付けるときに、サーバ本体内部に不要な部品や工具を置き忘れたままにしないようにご注意ください。

12 ラックフロントカバーの取り付け

1 ラックフロントカバーを取り付けます。

サーバ本体前面に、「8 フロントカバーの取り外し」(→ 14 ページ) で取り外した *** ネジ (★要確認) 14 本で固定します。



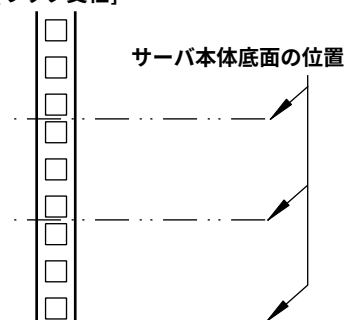
13 サーバ本体のラックへの搭載

ここでは、サーバ本体の取り付け位置の選択からラックへの搭載までの手順について説明します。レールの取り付け手順は、使用するラックのタイプによって異なります。

■ サーバ本体の取り付け位置の選択

- 1 ラックのフロントドアとリアドアを開けます。
- 2 サーバ本体を取り付ける位置を決めます。

任意の、ラック支柱の穴の間隔が狭い位置 [ラック支柱]
にサーバ底面が来るように合わせます。



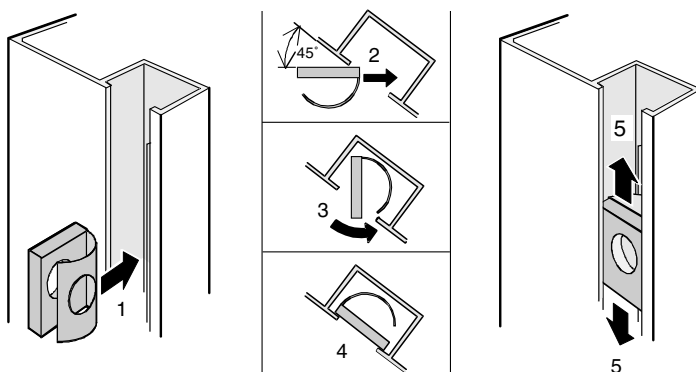
J

■ レールの取り付け手順（スタンダードラック使用時）

- 1 スプリングナットをラックに取り付けます。

本製品に添付の（★要確認）スプリングナット（各支柱2個ずつ）をラックの溝に図のように取り付けます（図中1～4）。

取り付けたあと、レールを取り付ける位置の下から1個目と3個目までスプリングナットをスライドさせます（図中5）。

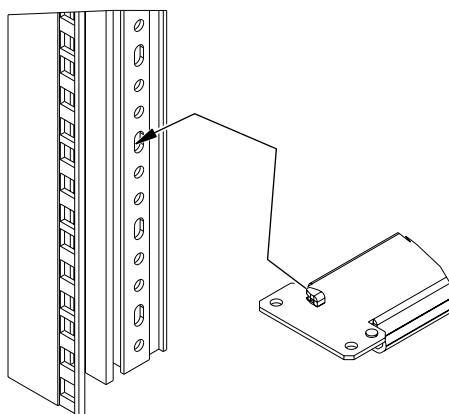


2 レールとラックナットをラックに取り付けます。

本サーバは 7U 使用します。

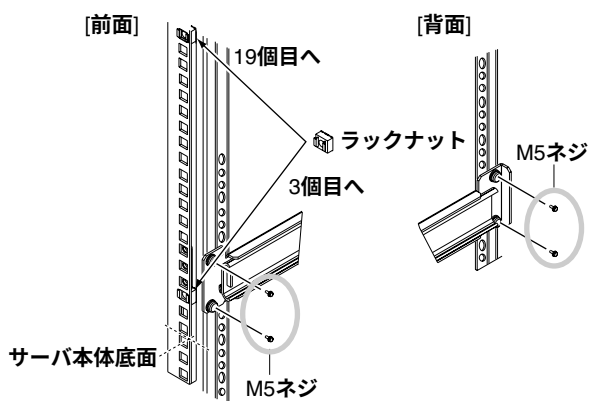
1 左右のレールをラックに取り付けます。

レールの前後の外側にある 4 つの小突起をラック支柱の穴に引っ掛け、手順 1 で取り付けたスプリングナットと本製品に添付の M5 ネジ (★要確認) 各 4 本で取り付けます。



2 本製品に添付の (★要確認) ラックナットを取り付けます。

サーバ本体を取り付ける位置の下から 3 個目と 19 個目の位置に、ラックレールの内側からツメを引っ掛けて取り付けます。



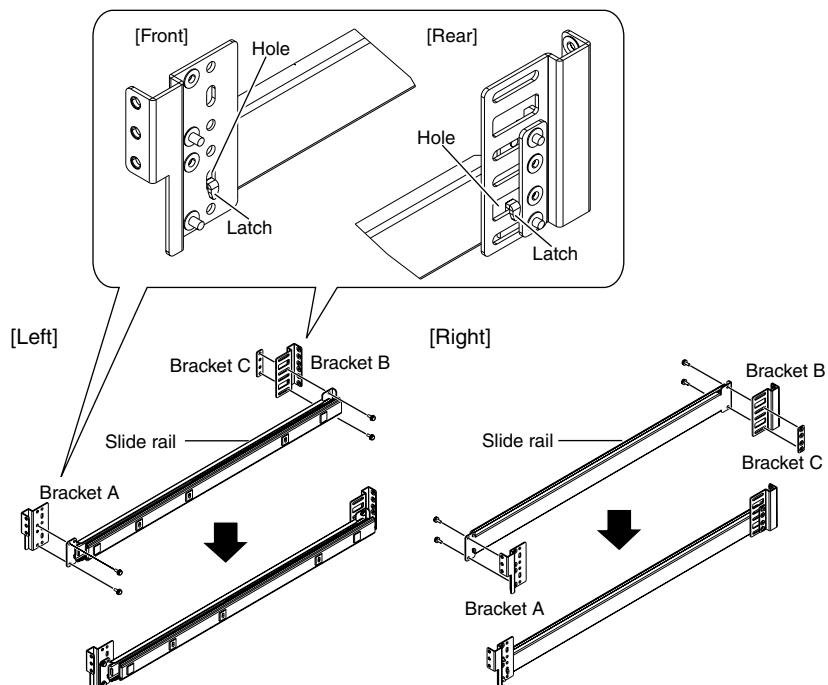
■ レールの取り付け手順（スリムラック使用時）

1 レールを組み立てます。

スライドレールにブラケット（A、B、C）を、本製品に添付の M5 ネジ（★要確認）前後各 2 本で取り付けます。

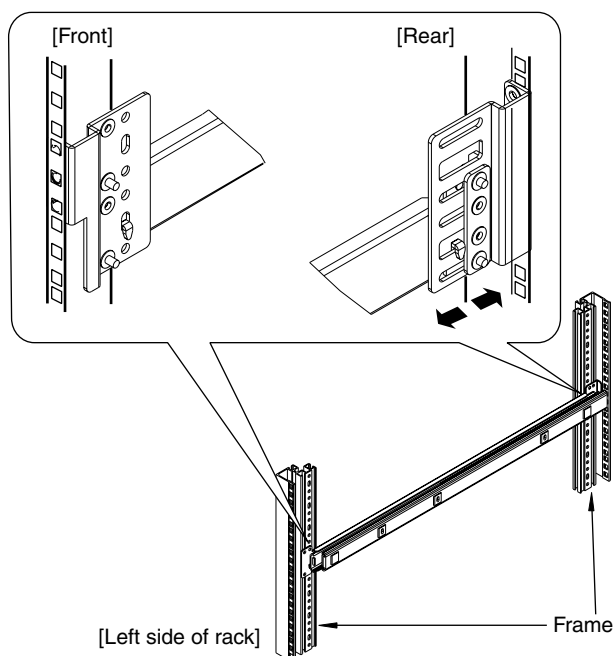
ブラケット A、B は、スライドレールの内側のツメをブラケットの穴に引っ掛けてからネジをしめます。

背面側のブラケットは、ネジを軽くしめておきます。



2 レールブラケットの長さを左右ともにラックの幅に合わせます。

背面側のブラケットをスライドさせて、レールブラケットをラックの幅にあわせ、手順2で軽くしめておいた背面側のブラケットのネジをしめて固定します。



3 ラックに添付の（★要確認）レールとラックナットをラックに取り付けます。

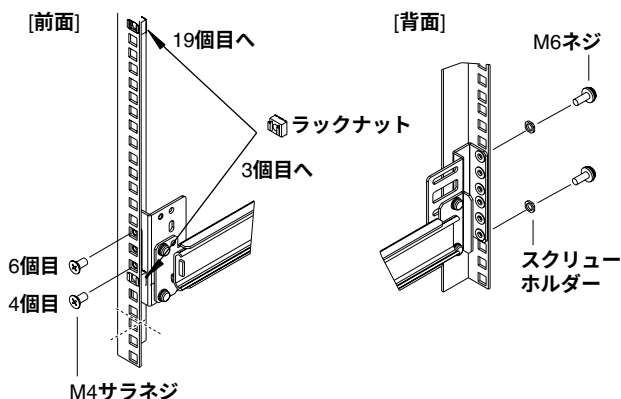
本サーバは 7U 使用します。

1 レールを取り付けます。

レールはサーバ本体を取り付ける位置の下から、前面は 4 個目と 6 個目の位置に本製品に添付のサラネジ（★要確認）のみで取り付けます。背面はスクリューホルダーとともに M6 ネジで取り付けます（M6 ネジ、スクリューホルダーは本製品に添付★要確認）。

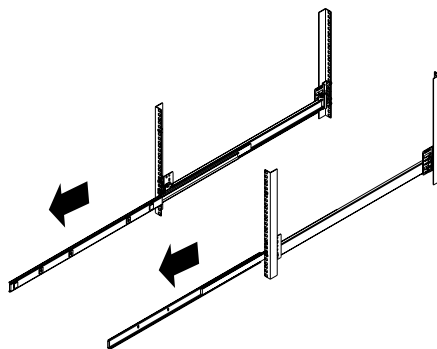
2 ラックナットを取り付けます。

サーバ本体を取り付ける位置の下から 3 個目と 19 個目の位置に、ラックレールの内側からツメを引っ掛けて取り付けます。



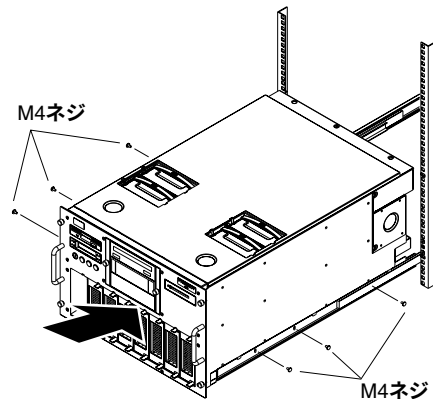
■ ラックへの搭載

1 スライドレールを、カチッと音がするまで伸ばします。



2 サーバ本体をラックに取り付けます。

スライドレールの溝とサーバ本体の溝を合わせ、本製品に添付の M4 ネジ 3 本 (★要確認) で固定します。
固定したあと、サーバ本体を後方にスライドさせ、ラックに搭載します。

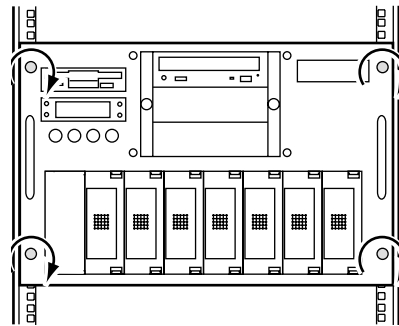


注意

サーバ本体をスライドさせる場合や元に戻す場合は、指や衣服が挟まれないよう注意してください。けがをするおそれがあります。

3 サーバ本体とラックを固定します。

サーバ本体とラックを本製品に添付の *** ネジ 4 本 (★要確認) で固定します。

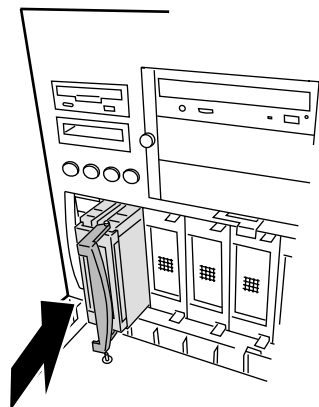


14 内蔵ハードディスクの取り付け

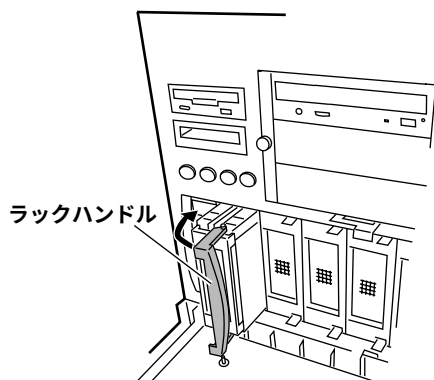


内蔵ハードディスクは、取り外したときに記録した位置と必ず同じ位置に内蔵ハードディスクを取り付けてください。取り付け位置が違うと正しく動作しないおそれがあります。

- 1 内蔵ハードディスクのハンドルが上げられた状態で、内蔵ハードディスクベイに差し込みます。



- 2 内蔵ハードディスクのハンドルを下げて、確実に差し込みます。



15 電源を入れる前の確認事項

サーバに電源を入れる前に、必ず次のことを確認してください。

■ 内蔵ハードディスクについて

確認事項	確認
3.5 インチストレージベイの奥まで完全に差し込まれていますか？	☐
すべての内蔵ハードディスクが取り付けられていますか？	☐

■ ケーブルについて

確認事項	確認
指示どおりに接続されていますか？	☐
各ドライブのコネクタに完全に差し込まれていますか？	☐
すべてのケーブルが取り付けられていますか？	☐
取り外すように指示してあるケーブルは取り外しましたか？	☐
「1 変換作業前の準備」でサーバ本体から取り外した電源ケーブルは接続しましたか？	☐

■ 拡張カードについて

確認事項	確認
拡張カードがスロットの奥まで完全に差し込まれていますか？ ※変換作業時の衝撃でカードの差し込みがゆるむ場合があります。	☐

■ 周辺機器について

確認事項	確認
「1 変換作業前の準備」で取り外した周辺機器は、元どおりに正しく接続しましたか？	☐

サーバ本体をラックに搭載したあと、ServerView の画面表示をラックマウントタイプの表示に更新するために、以下の作業を行います。



CAUTION!

Before rebooting the system from the ServerWizard CD, ServerStart CD or Hardware Configuration Tool Boot Floppy, first check that the ServerView "OS Boot Monitoring" function has been disabled (default setting is "Disabled").

If the system is started with the "OS Boot Monitoring" function enabled, the server is liable to automatically shutdown and/or reboot and/or perform other unexpected operations.

If the "OS Boot Monitoring" function is needed, it should be reset to enabled before resuming normal server operation.

See the "ServerView User's Guide" on ServerView CD-ROM for more ServerView information.

- 1 (サーバ本体に ServerWizard が添付されている場合) サーバ本体に添付の「ServerWizard」CD-ROM をセットし、サーバを再起動します。
(サーバ本体に ServerStart が添付されている場合) サーバ本体に添付の「Hardware Configuration Tool Boot Floppy」ディスクをセットし、サーバを再起動します。



ポイント

A "Hardware Configuration Tool Boot Floppy" may be created using the ServerStart CD. For details on how to create, refer to section "Creating a Hardware Configuration Tool Boot Floppy" in PRIMERGY H200 SERVER SYSTEM Operating Manual.

- 2 Menu より、「Basic (BIOS Environment Support Tools)」を選択し、[Enter] キーを押します。

3 本製品に添付の「PRIMERGY H200 Rack Conversion Tool」ディスクをセットし、次のコマンドを入力します。

(「ServerWizard」CD-ROM からシステムをブートした場合)

```
A:\>b:      [Enter]
B:\>conv    [Enter]
```

(「Hardware Configuration Tool Boot Floppy」ディスクからシステムをブートした場合)

```
A:\>conv    [Enter]
```

正常に行なわれると、以下のように表示されます。

```
Chassis type data has been changed.
Normal End.
```


付録

1 使用環境シート

ここには、サーバ本体の仕様、ラック型名およびラックマウント変換機構型名を記録します。

サーバ	モデル名	PRIMERGY H200
	型名	☐ GP _____ ☐ PG _____
	シリアル番号	
	Product Key [*]	— — —
ラック型名		
ラックマウント変換機構型名		PG-R1CK3

^{*})サーバ本体の左右どちらかの側面にProduct Keyラベルが貼付されている場合にのみ記載してください。

PRIMERGY H200
ラックマウント変換機構 (PG-R1CK3)
取扱説明書

Rack Conversion Kit (PG-R1CK3)

P3FY-2370-01EN-00

発行日 2002 年 3 月
発行責任 富士通株式会社

Issued on March, 2002
Issued by FUJITSU LIMITED

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- The contents of this manual may be revised without prior notice.
- Fujitsu assumes no liability for damages to third party copyrights or other rights arising from the use of any information in this manual.
- No part of this manual may be reproduced in any form without the prior written permission of Fujitsu.